2025 トライアスロン横浜大会 レスキュー支援報告

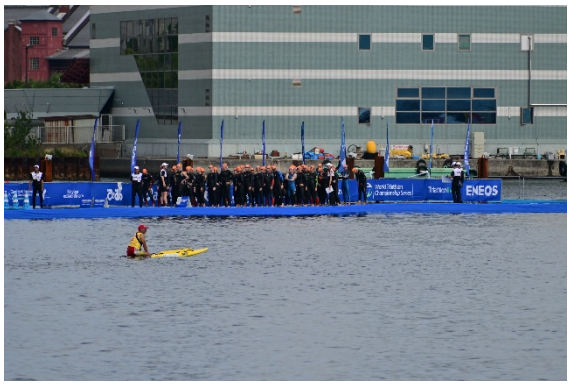
今年も昨年に続き、5 月 17 日(土)、18 日(日)に横浜山下公園で「2025 世界トライアスロン横浜大会」が開催されました。JUDF は 18 日に行われたエイジクラス、スイム部門でのレスキュー支援を実施しました。





今大会も昨年を上回る 1,700 名を超える参加者がおり、会場の山下公園周辺では大変多くの出場選手や応援のギャラリーでにぎわっていました。

大会当日は、若干の風はあったものの、前日とは打って変わって好天に恵まれ気温もかなり上がりました。前日 17 日のエリート部門では、雨によりレース直前のコース変更や、バイクではスリップによる転倒などのトラブルもあったようです。
海の方はというと、その雨の影響で海面水温が 17～18℃程度に下がってしまっていて、ウエットスーツを着ていても寒く感じるほどでした。例年、水温は 20℃程度なので選手たちへの影響が気になります。





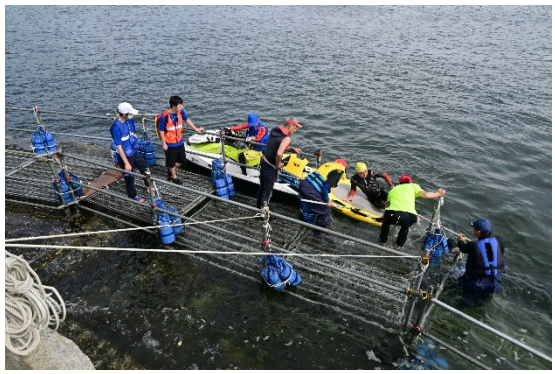
さて、大会の海上にはライフセーバーが数多く配置されています。さらにレスキュー艇や水上オートバイも万一に備えてスタンバイしています。不運にも沈水してしまった選手がいた場合、彼らのみでは救助しきれないことから、我われダイバーチームが配置されています。
これまでは、スイムコースに沿う形で、ダイバーが水面監視を行っていましたが、一昨年よりレスキュー態勢の見直しがなされ、一部水面監視を残しつつ、ダイバーはレスキュー艇に乗船、あるいは陸揚げ用の桟橋で待機・監視する、というスタイルになりました。これで救助が必要な事態が発生した際には、いち早く現場に向かえるようになりました。



この日は、予想以上に気温が上がり、ラン部門のコース上では、選手に散水している場面もありました。
スイムではちょっと寒そうでしたが、続く陸上でのバイクやランでかなり火照っていたようで、水を浴びた選手は一様に気持ちよさそうでした♪
最終的に、給水車の水も散水に活用していました。



レスキュー艇
緊急時の統括を担うレスキュー艇にもダイバーが乗船して、いつでも対応できるようにしています。



PWC（水上オートバイ）
リタイヤなどで搬送されてきた選手を、桟橋で陸揚げします。
ダイバーも必要に応じて協力します。







水面監視
コース外周はレスキュー艇や PWC の航路になるのでダイバーは安全のため少し離れたところで監視します。
ダイバーだけポツン、としているようですが、監視が手薄になりがちなエリアのため、実は重要なポジションです！





今年は、2009 年から開催されている横浜大会の、15 回目記念事業として、さまざまなサブイベントが実施されていました！スイム部門では、小中学生によるスイムポンツーンウォークと稚魚放流が行われました。
山下公園の海は、10 年前と比べても圧倒的にキレイになりました。これまで定期的に海底清掃を実施してきたり、環境保全への啓蒙活動を行ってきた結果でしょう。放流した稚魚も、山下公園の海ですくすく大きくなってくれるといいですね☆

というわけで、今大会も重篤な事故が発生することもなく、無事に終了することができました。水温の影響で、特に 40 代以上の選手ではリタイヤが何名か見られました。
日頃から相当に鍛錬を重ねていても、いざ自然環境の中に身を置くと、思わぬトラブルがばしば発生するものです。われわれダイバーも、自信が過信にならないよう、常に気を引き締めておくようにしたいですね。

早朝より、大会支援にご参加くださった理事ならびにメンバーの皆さん、今回もご協力いただき大変ありがとうございました！



報告： E-373 田嶋